

## 販売馬の手術歴等について

本年度より、共有馬主の皆様へ販売馬の育成時の健康状態を詳しくお知らせすべく、一般社団法人日本競走馬協会主催のセレクトセールにおける公表事項である下記(1)～(8)の項目にならい、販売馬の手術歴等について別途ご案内することにいたしました。該当する販売馬は下表のとおりとなっておりますのでご確認ください。

なお、該当する販売馬につきましても、厳しいチェックのうえ販売馬リストに名を連ねていることを申し添えます。

- (1) 悪癖(さく癖、旋回癖、熊癖) (2) 目の異常(白内障、黒内障、緑内障)、月盲 (3) 上気道疾患に対する外科手術歴  
(4) 開腹手術歴 (5) 骨折に起因する外科手術歴 (6) 関節内骨関節疾患に対する外科手術歴  
(7) 腱及び靭帯(支持靭帯)の切断もしくは切除手術歴 (8) 去勢

(2021年6月6日現在)

No.	販売馬	販売者	悪癖	手術歴(実施日:年/月/日)
205	ライフフォーセール <sup>の20</sup>	ノーザンファーム		両飛節OCD除去手術(2021/3/10)
208	アッラサルーテ <sup>の20</sup>	ノーザンファーム		右飛節OCD除去手術(2021/5/3)
213※	リトミックダンス <sup>の20</sup>	社台ファーム		左飛節OCD除去手術(2021/6/4)
214	ランドオーバーシー <sup>の20</sup>	社台ファーム		右飛節OCD除去手術(2020/12/19)
216	サブトゥエンティ <sup>の20</sup>	ノーザンファーム		両後膝OCD除去手術(2020/10/16)
218	エオリアンハープ <sup>の20</sup>	社台ファーム	旋回癖	
222	メンディド <sup>の20</sup>	社台ファーム		右前球節骨片除去手術(2021/3/1)
229	アンバーミニ <sup>の20</sup>	社台ファーム		両飛節OCD除去手術(2020/12/14)
230	クラウンプリンセス <sup>の20</sup>	社台ファーム		両飛節OCD除去手術(2021/1/6)
231	セルキスの <sup>20</sup>	ノーザンファーム		左飛節OCD除去手術(2021/2/24)
243	スマイリングムーン <sup>の20</sup>	追分ファーム		右飛節OCD除去手術(2020/11/24)
247	カルティカ <sup>の20</sup>	社台ファーム		左飛節OCD除去手術(2021/1/5)
248	ディアマイダーリン <sup>の20</sup>	追分ファーム		左飛節OCD除去手術(2021/1/26)
255	アガルタ <sup>の20</sup>	ノーザンファーム		左前管骨骨膜除去手術(2021/2/10)
262	カレンリスベット <sup>の20</sup>	社台ファーム		左飛節OCD除去手術(2021/2/18)
263	シンギングメリリー <sup>の20</sup>	ノーザンファーム		左前蹄 関節炎により関節洗浄(2020/10/14)
266	テクニカルラン <sup>の20</sup>	社台ファーム		左飛節OCD除去手術(2021/3/10)
271	カリスペルの <sup>20</sup>	ノーザンファーム		右後球節骨片除去手術(2020/7/30)
273	ラバヤデールの <sup>20</sup>	追分ファーム		結腸左背方変位開腹手術(2021/2/10)

●販売馬番号の※印はカタログ掲載(5月23日現在)時より新たに情報が追加された販売馬です

### 【用語説明】

#### 旋回癖

馬房の中でぐるぐる回る癖で、馬の行動異常の中でも常同行動と呼ばれるもののひとつです。常同行動というのは、一定の動作が繰り返し行われますが、目的や意味がはっきりしないため制御したり矯正したりするのは難しいとされています。ただ、旋回癖は特別な疾患に結びつくような性格はありません。

#### OCD

離断性軟骨骨症(Osteochondritis Dissecans)のことで、主に2歳以下の若駒に起こりやすく、関節(主に飛節、球節、後膝、肩)の軟骨から軟骨片が剥離し、炎症、関節液が増えることで関節の腫脹が起きる症状です。関節鏡手術による軟骨片摘出、増量した関節液を抜いた後にヒアルロン酸を注入するなど予後は良好で、早い段階で処置をすれば、術後も競走能力に影響を及ぼさないとされています。

※社台グループの各牧場では定期的に検査を実施しています。

#### 関節炎(関節洗浄)

免疫力が低い若齢期に起こる関節内の細菌性感染のことで、関節液の増量と跛行の症状が見られます。細菌が入った関節内をきれいにするため、関節内をよく洗い抗生物質を注入する治療が実施されます。これによりスムーズに回復し、短期間で放牧を再開することができます。治療により回復した馬は後遺症を見せることもなく、また競走能力に影響をおよぼすことがないとされています。